

学生さんからいただいた感想です。(一部省略しています。)

・今日の授業を受けて、日本の支援サービスの見方が変わり、保護者支援として私たちが保育士になったらどんな支援をしていけばいいのかについて考えさせられました。子どもへの教育の大切さが日本で謳われていて、支援サービスが増えていても利用できないご家庭が多いことに衝撃を受け、その理由を聞いてすごく納得しました。えんまるさんのアウトリーチ型の支援の発想と、その行動力を見て、私も子育て支援をする立場として行動したい、という気持ちになりました。

・一から支援を広げる苦勞から今に至るまでの経緯を詳しく聞くことが出来て大変学びになった。こういった支援は、親子の大切な未来に繋がっているのだと思うと、多くの子育て家庭に伝われば良いなと思った。しかし、伝わってほしい家庭にこそ伝わらないことが現実だと思う。地域で連携することの大切さも同時に感じた。

・私は、勉強していく中で、見えない人、手の届かない人への支援について、どうしたらそのような人達の支えになれるのだろうと考えていました。そして、岩間さんの話から居場所を作り待っているだけでなく、様々な理由でそこに来られない人に向けて、こちら側からアプローチし、物理的な居場所ではない繋がりを作っていければ良いんだなと思いました。ただ、それだけでは、本当に支援を必要としている家庭と繋ぐことができるのかという課題もあると思います。どうしたら、そのような家庭に情報が届くのか、利用してもらえるのか、この部分も考えていかなければならないと思いました。私たちのような、若い世代が様々な形で情報を発信していき、えんまるのような制度があることを知ってもらえるように取り組んでいくことも大切だと感じました。

今回の講義を聞いて、自分の中で思っていることを、ずっと自分の中だけに止めておき、諦めるのではなく、実際に行動しながらその中で失敗もしていき、そして、どうしたら良いのか考えられる人になりたいと思いました。やってみたいけど、夢の夢かなと思うのはやめて、どうしたらそれを実現できるのかを具体的に考え、行動していきたいと思いました。

・「支援の入り口のハードルを下げる」という言葉がとても印象に残り、ただ支援を提供するという形を取るのではなく、利用者が利用しやすくなるように、提供していく側は配慮や支援方法を考えていかなければならないと感じた。

居場所作りは、単に物理的な場所だけでなく、心の居場所となる場所を作っていくことも大切であると感じた。いろいろな支援の形があり、一番利用しやすい支援を利用者が知り、利用できる環境を作っていきべきであると感じた。

・行政だけが動く、行政だけに頼る時代ではなくなり、法人などが各々の支援の形を作っていく中、まずは現状を把握し、できることを考えて動くことの大切さを感じました。こども宅食ではまず「食品のお届け」という食のサービスとして周知することで、そのプロセスの中で自然と大きな意味での「子育て支援」へと繋がっているのだと感じました。このような活動や考え方に共感し協力しようと行動できる企業さんや、個人さまが長野市やその周辺にたくさんいるんだなと思いました。食材だけでなく、みんなの気持ちもえんまるさんを通じて様々な人に伝わり、地域でつながっていく、素敵な取り組みだと感じました。わたしも自分にできることを考え、行動に移していきたいです！

・ゼミの中でも、子育て支援を本当に必要としている人に繋げることが難しく、繋げるにはどうしたらいいかなどを考えてきました。えんまるさんは支援を始めるにあたり、知ってもらうことから始めたということをお聞きし、本当に大切なことだと感じました。多くの人に知ってもらうことは支援を必要とする人に繋がるきっかけになると学ぶことができました。

・コロナ禍で私自身も人とのつながりの大切さを改めて感じました。誰かが見てくれている、気にかけてくれる人がいる、という心のつながりがあるだけで、頑張れたり辛いことがあっても乗り越えられるような気持ちになると思います。そういった居場所の大切さを岩間さんのお話から気づかされました。また、現代は、子育て環境も多様で、保護者の方が抱えている困難も多種多様だと思います。子育て環境の現状を理解し、お母さんたちの困っていることを直に聞き、そこから支援を考えていくということが求められると思いました。私も考えて行動できるようになりたいです。保育を学ぶ上で、とても大切なことを勉強させていただきました。

・今日のお話を聞いて、まず、えんまるさんはこども宅食を行う際に、食品をそのままダンボール等に入れて届けるのではなく、一つ一つ丁寧にカゴに入れて配るという配慮が行われているということを知り、そのような配慮があるからこそ保護者の方も温かい気持ちで受け取ることができたり、食材を提供する支援する側の方も温かい気持ちで積極的に支援したいという気持ちになることにつながると感じ、支援対象だけでなくいろいろな立場の人の気持ちを常に想像することが大切であることを学びました。今後自分が活動する際には常に意識したいと思いました。

・普段生活をしていると、ひとり親家庭の現状が見えにくいため、今回のようにお話を聞く中で改めてこのような家庭に対する支援の大切さに気付かされました。ひとり親家庭が様々な問題を抱えている中で、えんまるさんの活動を通して、悩みを相談できるなど、繋がりも生まれることが素敵だなと思いました。